カーボンニュートラルへの取り組みをさらに拡大

非鉄金属リサイクル全国連合会 会長 橋本健一郎氏に聞く

22年の非鉄相場はウクライナ情勢の緊迫化や米国の金融引き締めなどで急騰急落し、記録にも記憶にも残る年となった。一方で海外へのスクラップ流出が加速し、国内は品薄に悩まされ続けた。先行きの相場動向や国内の原料需要、荷動きの変化をどう捉えるのか。全国の非鉄スクラップ業者が加盟する非鉄金属リサイクル全国連合会（以下＝非鉄全連）の会長を務める橋本健一郎氏（橋本アルミ取締役）に新年の抱負とあわせ話を聞いた。

（令和4年12月7日取材）

原料需要は旺盛も相場的には弱い年に

――昨22年の非鉄相場を振り返って。

橋本　前半はウクライナ情勢の緊迫化に伴う供給懸念で高騰した。LME銅価格は2月に1万ドル超え、アルミ価格も3月に一時4000ドル近くまで跳ね上がった。銅建値は4月に137万円を付け史上最高値を更新するなど、為替の円安が月毎に進み国内相場の押し上げに寄与したと言える。

ただ、7月から欧米諸国の金融引き締め策が次第に効き始め、LME相場は総じて軟化した。年後半は米利上げと中国のゼロコロナ政策が上げ下げの材料となり、それらに振り回された感がある。

――昨年前半の歴史的な相場高が、スクラップ業界に与えた影響を。

橋本　一般的に銅の価格がアルミ価格の3倍高くなれば、製品における素材の切り替えが生じる。既に家電や空調機メーカーで銅の使用量を削減する動きが見られ、原料を供給する立場としては需要動向に変調をきたすため、極端な高騰は歓迎できない。また、建値が上がった半面、仕入れ値も高騰したため、資金繰りの苦慮や反落リスクの大きさに直面したと言える。

――原料の需要動向はどうだったか。

橋本　直近は中国都市部のロックダウンの影響でスマートフォン向けの受注が落ち込んでいるが、伸銅品生産は品種によって開きがあり、全体としては概ね好調を維持したとの認識だ。銅やアルミの需要に関連性の深い自動車生産台数も8月から前年増に転じ、アルミ二次合金メーカーが下期に原料の調達姿勢を強めた経緯がある。結果的に銅もアルミもメーカーの原料購入意欲は一年を通して比較的高く、市中の発生薄が加わり需給タイト感は解消されなかった。

――今年の相場展望を。

橋本　今年も欧米の金融政策と中国のゼロコロナ政策、ウクライナ情勢に左右されるはずだ。

金融政策に関しては、米連邦準備制度理事会（FRB）が23年3月までの政策金利を計3・25%程度から5%まで引き上げるとの見解もあり、LME価格にとっては悪影響だ。インフレ抑制に対する米国の強固な姿勢を見ると、相場は上がるか下がるかの問題ではなく、どの水準まで下落するのかがポイントとなり、市場は逆らうことができないだろう。

中国のゼロコロナ政策も抗議デモで緩和の方向に動くが、感染者が増加すれば再び引き締めるはずで、それらを繰り返すのではないか。ウクライナ情勢も長期戦に突入し新たな展開は見込めず、以上を踏まえると原料需要は旺盛も、相場的には弱い一年になるだろう。

「より良く もっと良く」を掲げ、活動に注力

――非鉄全連の活動状況と今年の展望を。

橋本　昨年はコロナ禍の呪縛はあったが、理事会や懇親会などをほぼ計画どおりに行うことが出来た。特に3年ぶりの対面開催となった6月の総会（富山県）には多くの参加者があり、非常に感慨深かった。11月には青年部の主催で工場見学会を開催するなど、会員同士でリアルに交流を深め、横の繋がりが図れたことが大きな実りとなった。

今年は総会や理事会などを通常モードで開催する予定で、「より良く もっと良く」を抱負に掲げ、非鉄全連の活動に注力していく。その手始めとして今年6月に地元関西で予定している総会・懇親会はレクリエーション要素が強く、会員やその家族までを巻き込んだ楽しい企画を模討しており、期待して頂きたい。

また、カーボンオフセットが問われる時代の中、アルミ軽圧メーカーがCO_2の削減目標を掲げ、アルミ新塊の使用比率を引き下げ、スクラップの使用量を増やす方針も伝えられる。当然、非鉄地金より非鉄スクラップを使用する方がCO_2の排出量が少ないことは周知の事実だが、具体的な数値として把握できていないのが現状だ。そのため、非鉄全連として数値を把握し、メーカー各社や関係団体、関係省庁に説明またはアピールをしていくため、その調査を実施する予定で、カーボンニュートラルへの取り組みをさらに広げていく考えだ。

令和5（2023）年1月　新春特集
新春のお慶びを申し上げます
日刊市況通信 METAL RECYCLING JAPAN